

令和 7 年度第 3 回
青梅市環境審議会
議 事 録

令和 7 年度第 3 回青梅市環境審議会議事録

○ 開催日時 令和 8 年 3 月 2 7 日（金）午後 2 時 0 0 分

○ 会 場 青梅市役所議会棟 3 階第 2 委員会室

○ 出席者（委員 9 人）

氏 江 規 雄 委員	鮫 島 ひふみ 委員
宮 口 泉 委員	竹 内 俊 夫 委員
久 保 安 宏 委員	西 浦 定 継 委員
小 堀 洋 美 委員	廣 瀬 光一郎 委員

○ 欠席者（委員 2 人）

船 木 克 彦 委員	榎 戸 茂 之 委員
------------	------------

○ 説明のため出席したものの職氏名

環境部長	山 中 威
環境政策課長	高 野 剛 志
環境政策課 管理係長	小 黒 秀 幸
環境政策課 管理係	小 椋 雄 太

○議事次第

開会

1 あいさつ

2 諮問事項

青梅市生物多様性地域戦略の改定について【資料 1、2－1、2－2】

3 報告事項

(1)第 2 次青梅市環境基本計画および青梅市生物多様性地域戦略における市の取組状況の調査結果について【資料 3－1、3－2】

(2)第 3 次青梅市環境基本計画および第 2 次青梅市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）ならびに青梅市生物多様性地域戦略の取組評価様式の改定について【資料 4】

4 その他

閉会

○配布資料

- ・令和 7 年度第 3 回青梅市環境審議会 次第
- ・第 1 2 期青梅市環境審議会委員名簿
- ・資料 1 青梅市生物多様性地域戦略の改定スケジュール案について

- ・資料２－１ 調査案について
- ・資料２－２ 青梅市生物多様性保全協議会委員名簿
- ・資料３－１ 各計画における市の取組状況の調査結果
- ・資料３－２① 第２次環境基本計画市の取組一覧（緑・水・大気・ごみと資源・エネルギー・ひと）
- ・資料３－２② 第２次環境基本計画市の取組一覧（重点アクション）
- ・資料３－２③ 青梅ひとと生き物イキイキプラン市の取組一覧
- ・資料４ 新取組評価様式（案）

開会

1 あいさつ

- ・環境部長挨拶

2 諮問事項

青梅市生物多様性地域戦略の改定について【資料1、2-1、2-2】

- ・事務局 現行の戦略は平成30年に策定され、令和9年度までの計画となっている。この間、国際目標や国や都の計画等に大きな変化があったため、これらに対応した新たな戦略を策定する。2か年で改定を行い、令和8年度は調査方法等の検討を行う予定である。市内の生物相の把握のため、前回の戦略策定時と同様に、青梅市生物多様性保全協議会委員と連携し、「生き物調査」を実施する予定である。また、市民が収集した情報等を分析した生物多様性に関するビッグデータを活用したい。計画策定にあたり、本審議会および「青梅市生物多様性保全協議会」に加え、庁内組織である「青梅市生物多様性地域戦略検討委員会」を立ち上げ、協議を進めていく。
- ・委員 プロポーザルの選定はどのような組織で行うのか。また、ビッグデータの解析には高度な専門知識がいるが、選定側にそれを評価する知見はあるのか。
- ・事務局 選定は庁内組織の検討委員会で行う。ビッグデータ分析については、既に実績のある専門事業者へのヒアリングを進めており、その提案内容を比較して決定したい。
- ・委員 昨今は空間情報や統計手法、AI活用など分析方法が多様化している。AIは中身が見えにくい面もあるため、妥当性をしっかり評価でき、技術動向に明るい事業者を選定すべきだ。
- ・委員 スケジュール表では、生物調査が令和9年7月まで続くのに、現状分析が令和8年10月で終わっている。調査が終わる前に分析が終わるのは整合性が取れないのではないか。
- ・事務局 ここでの「現状分析」は、生物相の調査結果だけでなく、社会情勢や国の戦略分析を指す。実地調査の結果は、最終段階で戦略の肉付けとして適切に統合していく。

3 報告事項（1）

第2次青梅市環境基本計画および青梅市生物多様性地域戦略における市の取組状況の調査結果について【資料3-1、3-2】

- ・事務局 「第2次環境基本計画」の過去10年間、および「イキイキプラン」の令和6年度単年度の取組状況を報告する。環境基本計画では224項目のうち96%、イキイキプランでは66項目のうち97%が「S」または「A」評価（概ね予定通り）となった。一方

で、水質調査のコロナ禍による中止や、住民負担に伴う下水道整備の遅れ、資源化率の目標未達などにより「B」や「C」評価となった項目についても、内容を整理し報告したものである。

- ・ 委 員 資源化率が目標40%に対し32.7%（C評価）だが、具体的な理由は。
- ・ 事務局 ごみ総量は10年前比で約10%減っているが、資源化率は想定ほど増えなかった。
- ・ 委 員 減量という目的は果たせている。評価指標をより現実的なものに見直すのも一案だ。
- ・ 委 員 公園や河川でのポイ捨てが急増している。注意しても効果がなく、地域住民が毎日ゴミを拾っている。看板設置や見回り以外の、もっと踏み込んだ対策（教育連携や有料ボランティア等）を検討してほしい。
- ・ 事務局 状況は把握しており看板等で呼びかけているが、河川の草が生い茂る時期の対応など課題もある。今後の検討事項としたい。
- ・ 委 員 環境問題の根幹である「原発」についても、地域で考えるべきではないか。
- ・ 事務局 市としては原発の是非を論じるのではなく、地域で可能な「再生可能エネルギー（太陽光等）」の導入推進に注力することを計画に盛り込んでいる。
- ・ 委 員 森林ボランティアで出た間伐材の有効利用（薪などへの無償配布）を検討してほしい。
- ・ 事務局 都の事業制約やコストの課題はあるが、有効活用のニーズは把握している。今後の調査研究としたい。
- ・ 委 員 評価の多くが「PRした」といったプロセス評価だが、具体的な「数値（結果）」に基づいたアウトカム評価にシフトすべきではないか。
- ・ 事務局 次期計画ではデータサイエンスの視点を取り入れ、客観的な評価ができるよう改善を図りたい。

3 報告事項（2）

第3次青梅市環境基本計画および第2次青梅市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）ならびに青梅市生物多様性地域戦略の取組評価様式の改定について【資料4】

- ・ 事務局 これまでの様式は、全ての取組事例を列挙していたため、項目数が膨大で計画全体の方向性が見えにくい課題があった。新しい第3次環境基本計画の評価からは、評

価項目を「取組の方向性」ごとに大枠化し、具体的な数値や実施内容を分かりやすく記入する形式に改定することで、実施状況を適切に把握できるようにする。

- ・委員 パッと見られる「要約表」と、詳細を記した「中身」に分け、興味がある部分を掘り下げられる形式にしてほしい。
- ・委員 大枠化はいいが、青梅市が支援している細かな市民活動やNPOの活動が見えなくなるのは惜しい。青梅の強みである「活動の多様さ」がわかる工夫が必要だ。
- ・事務局 全体を俯瞰できる構成にしつつ、詳細内容はホームページ等でアクセスできるように検討する。
- ・委員 青梅は移住者が増えている。自然を求めてくる人に対し、こうした活動をもっと戦略的にアピールしてはどうか。
- ・事務局 シティプロモーション課と連携し、環境の魅力発信を強化したい。
- ・委員 最終的に重要なのは「基本理念」が達成されたかどうかだ。体系的にゴール（成果）が見える評価を期待する。

4 その他 特になし

閉会

以 上